

## 第4回がん登録推進部会 議事概要

日時：平成22年(2010年)2月4日(木)16:00~17:15

場所：滋賀県立成人病センター研究所会議室

出席者：目片 英治、太田 悦子(滋賀医科大学医学部附属病院)

早雲 孝信、森 明子(大津赤十字病院)

寺村 清一郎(公立甲賀病院)

寺村 康史、湯浅 美智留(彦根市立病院)

東出 俊一、堀江 智美(市立長浜病院)

川上 賢三、田中 一史(成人病センター)

欠席者：加賀爪 雅江(健康推進課健康づくり支援室)

<敬称略>

### 【議事概要】

#### 1. 2007年診断分データ収集について 別紙資料

##### 2007年診断分データ収集結果報告

<事務局より>

今回は滋賀医科大学医学部附属病院・大津赤十字病院・市立長浜病院・成人病センターの4病院でデータ収集をした。

対象は5大がん+膵がん(局在コードC16\$,C18\$,C19\$,C20\$,C22\$,C25\$,C34\$,C50\$)とし、国立がんセンター「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式標準登録項目2006年版修正版」に沿って行なった。

部位別・病期別を軸に、医療機関、初回治療、内視鏡的治療、外科的手術・体腔鏡的手術などに関して集計した。結果は資料のとおり。

先に、国立がんセンターが発表した「2007年診断分腫瘍データ調査」の構成比の全国値と比べると、今回の集計結果はほぼ同じである。大腸でやや異なるが、滋賀医大の0期が多いことによると推測できる。

このデータをどのように活用していくかは、  
地域がん登録のデータを分母にすれば、県下における拠点病院の実態を示すことができる。

#### データ精度について

<事務局より>

前回の部会で報告したとおり、情報処理の過程や、データチェック方法の差異等々の問題があり、実務研修会などの後に実務者間で調整を重ね、再度データ収集した。精度は充分とは言えないが、各施設がデータチェックや点検のあり方について考え直すことになり、2月末が提出期限の2008年診断分データの精度向上に繋がる。

#### がん登録実務上の問題点について

<事務局より>

まず、情報処理に問題があった。(例えばCSVファイルの扱い方やデータの表示形式による抽出データの変換など。)

また、エラーチェックツールで「エラー無し」になっていても、各項目の条件にあったデータが登録できたということだけで、項目間の整合性はチェックできておらず、完璧なデータになったというわけではない。この点は、データ抽出後、実務者が自らチェックを行なう必要があることが理解できた。

今回の経験を基にデータチェックの方法などを、マニュアル化していきたい。

## 2. 平成21年度の実績結果について

### 実務者研修会・相談会の参加状況について

<事務局より>

地域医療機関の実務者への研修を行なうことはがん診療連携拠点病院に求められる役割の一つである。実務研修会・相談会ともに、県下のがん拠点病院以外の医療機関から多くの参加を得ている。また、参加者の実務スキルが向上していることは明らかで、この役割は果たせていると考える。

開催場所の病院に参加者名簿がなく、受付などで困る事があった。

プログラムをもっとはっきりして取り組むべきである。

講師にどのような話をしてほしいのか、具体的に依頼すべきである。

### データ収集調査について

<事務局より>

データ精度にはまだ難があるが、問題点がわかってきたことは収穫である。

## 3. 平成22年度の実績予定について

### 実務者研修・相談会の開催について

<事務局より>

来年度も実務者研修・相談会は続けて行う予定である。研修会のテーマについては、今年度のテーマ以外のがんについて学ぶかどうか、意見を求めたい。

研修では、データ件数が多く、貢献度が大きいと予測される5大がんを更にしっかりと学び、精度向上に努めるべきである。

各医療機関で

### データ収集調査について

<事務局より>

今年度の取り組みはトライアルという位置付けであったが、問題点を克服し、がん対策計画の基盤となるがん登録データ収集となるよう努めたい。

来年度は2008年診断分のデータを収集するので、彦根市立病院・公立甲賀病院にも参加していただく。基本的には、今年度と同様の形で行ないたい。

以上